

だが
故郷の
信州へ向かう
平八の足取りは
重かった……



主人から生糸を
仕入れて
くるように
命じられたのだ



信州では
大勢の借金取りが
待っている
だろうな



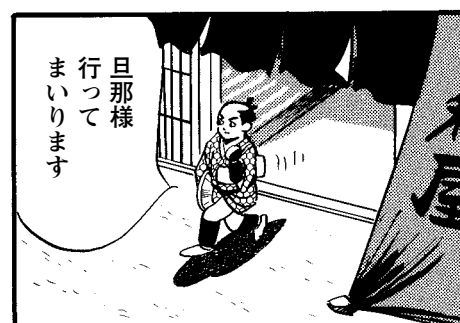
昔：わたしは
一攫千金をもくろんで
近隣の商人から
三〇〇両という
大金を借り集めて
大阪の堂島へ乗り込んだ



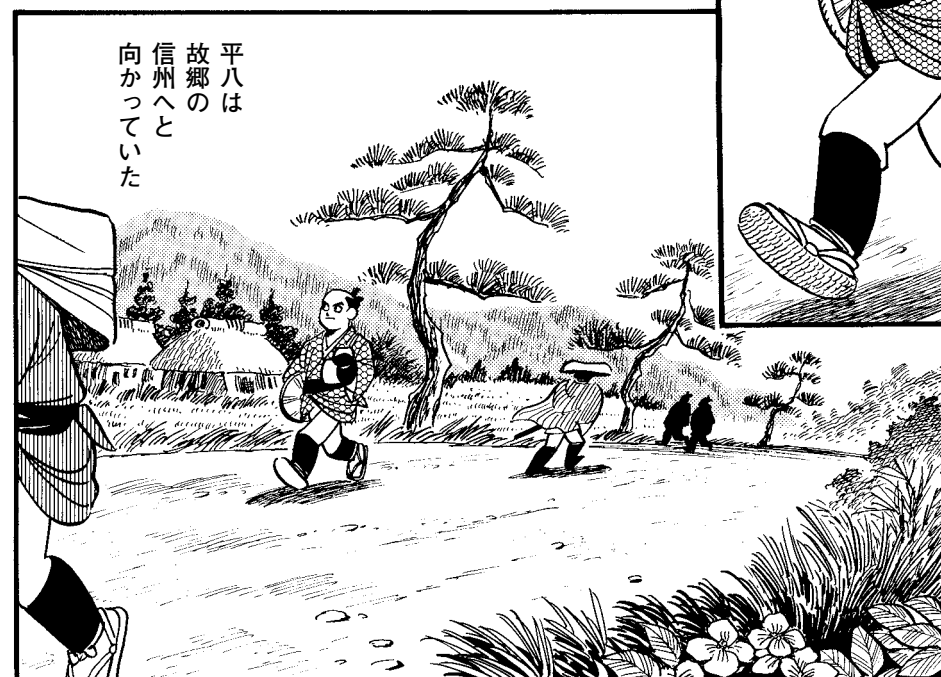
商才を認められ
主人の代理で
商品の仕入れなども
任されるようになった



——数年後
用心棒として
そのまま大和屋へ
雇われた平八
だが……



旦那様
行って
まいります



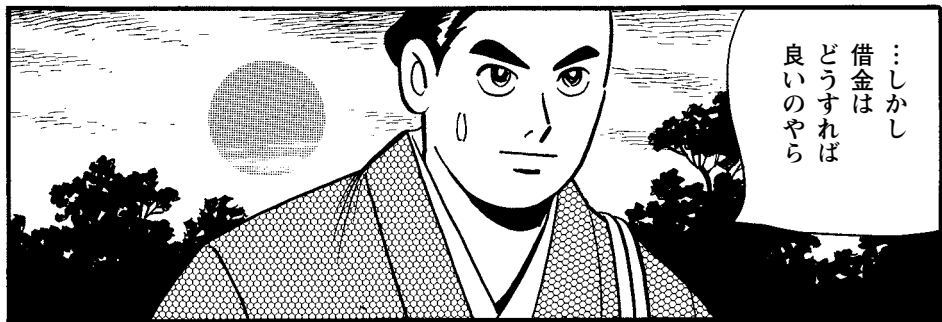
平八は
故郷の
信州へと
向かっていた



このたびは
主人の命では
仕方がない……



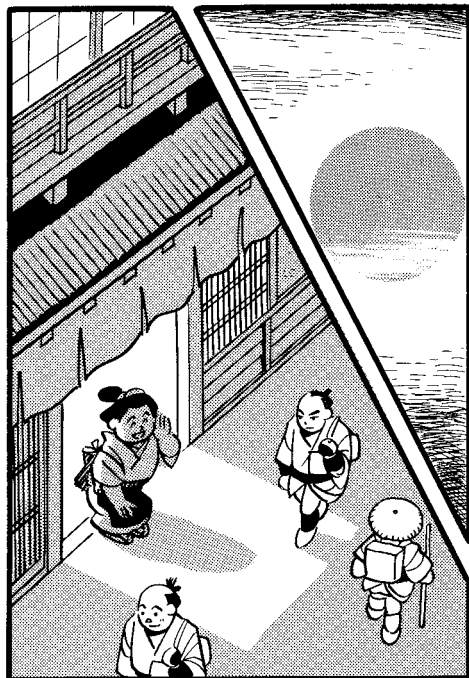
あれ以来
一度も帰って
いないが……



……しかし
借金は
どうすれば
良いのやら



お客さん
お宿まだなら
どうぞ！



その結果

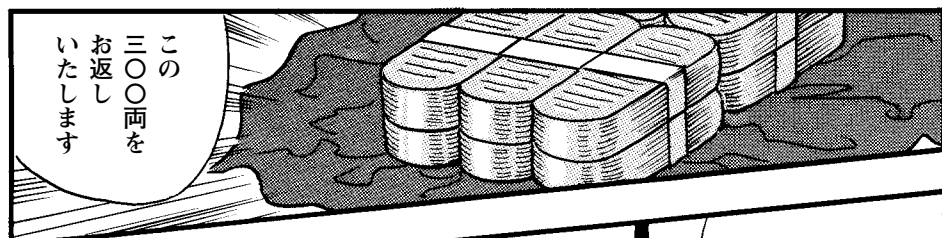
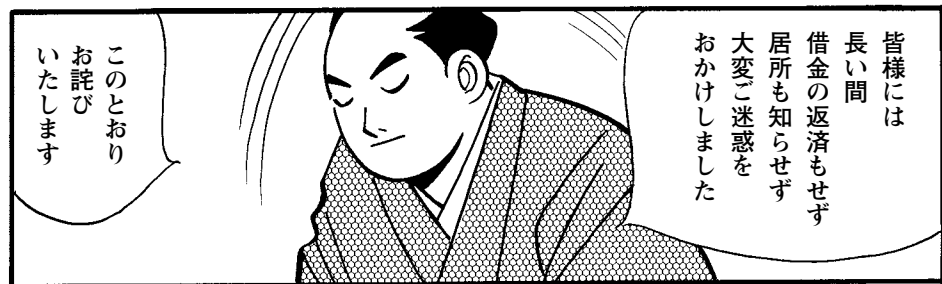


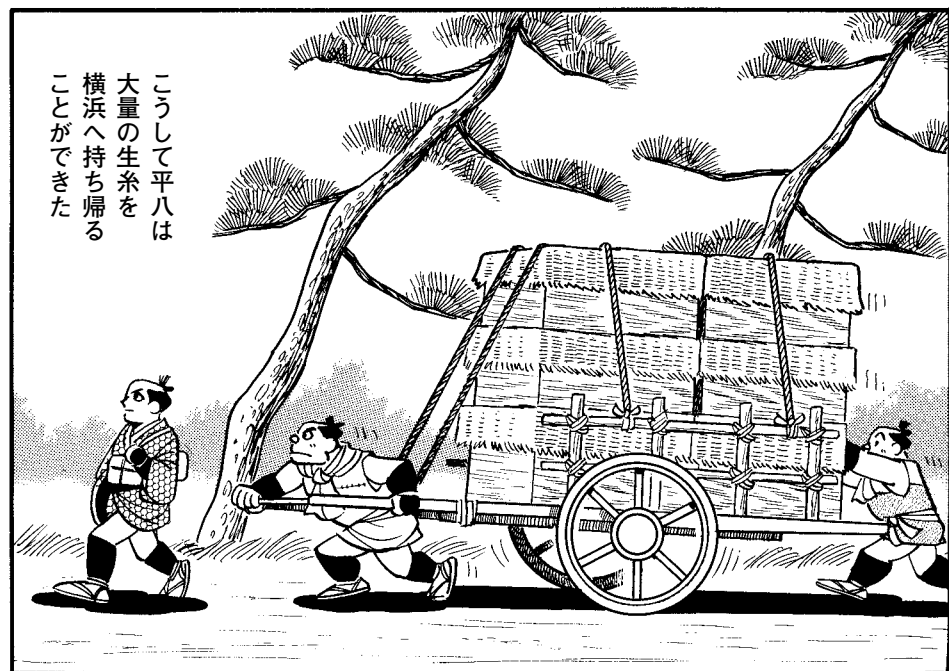
借金をして
集めた三〇〇両の
大金が消え去り
郷里には帰るに帰れず

そのまま
江戸へ出た



だが……
天下の相場師たちを
相手に大敗北をした





こうして平八は
大量の生糸を
横浜へ持ち帰る
ことができた



そして
相場師・田中平八の
出世の快進撃は
ここから
始まるのである…

この生糸で
大儲けをした大和屋は
平八の三〇〇両の
借金を帳消しにして
さらに
平八の独立を
援助することにな
る



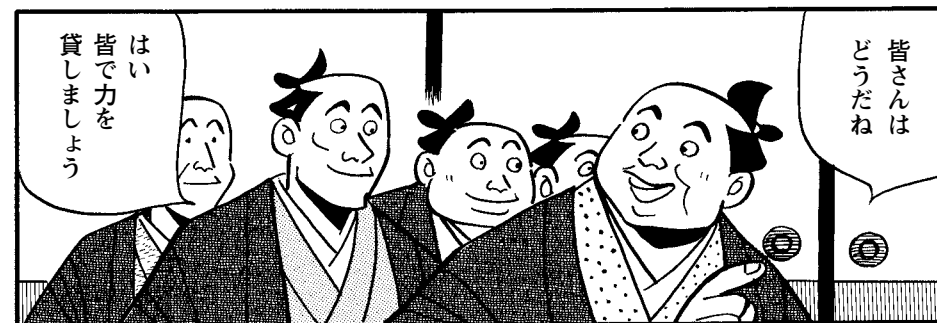
どうか
平八めを
助けて
ください



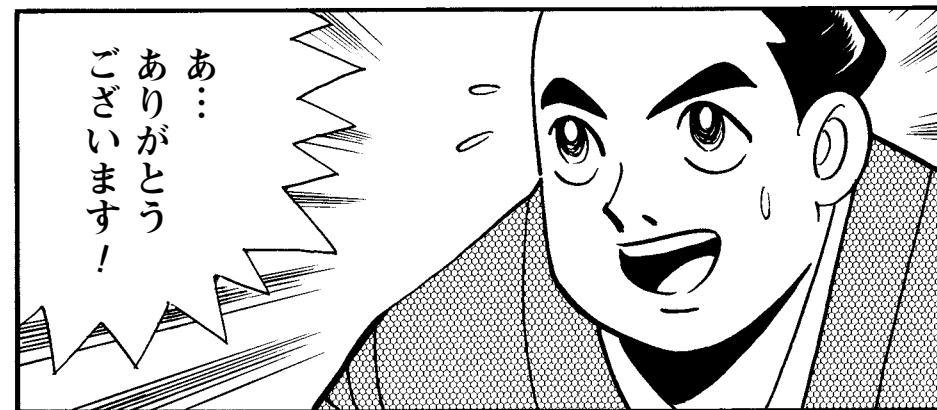
そこで皆様の
お情けに
おすがりして…
支払いを
二カ月後として
わたしに生糸を
売っていただき
たいのです



…わかった
平八さん
命をかけて
借金を返した
あなたを
信用しよう



皆さんは
どうだね
はい
皆で力を
貸しましょう



あ…
ありがとうございます
ございます！